

診療科		月	火	水	木	金	備考
内科	1診	大杉 和生	三浦 翔子	河俣 真由	今川 竜二	河俣(第1.3.5週) 紀南病院医師 (第2.4週)	ペース メーカー 第1月曜日 小藪
	2診	川崎 優也			研修医・小藪	為田 雅彦 (第2.4週)	
	循環器内科(予約)		伊藤 弘将 畑地 治 (第4週)	小藪 助成	世古口 茂幸	大杉 和生	
内科(呼吸器)(午後予約)							
内科(腹膜透析)(予約)			小藪 助成				
内科(透析センター)		午前:今川 竜二 午後:三浦 翔子	小藪 助成	大杉 和生	大杉 和生	小藪(第1.3.5週) 三浦 翔子 (第2.4週午前)	
カテーテル検査							
健康診断		小藪 助成				藤川 勝彦	
外科	1診	武内 泰司郎	加藤 弘幸	加藤 弘幸	加藤 弘幸		阪本 達也
	2診		阪本 達也		武内(第1.3.5週) 三重大学 水野教授 (第2.4週)		
乳腺外来(第1月曜14時半~予約制)		三重大学 小川教授					
胃カメラ(検査のみ)		阪本 達也	川崎 優也		消化器内科医師	加藤 弘幸	
大腸内視鏡(検査のみ)		外科医師			消化器内科医師		
整形外科	初診	横山 弘和	牧野 祥典	●横山 弘和	牧野 祥典	牧野(第1.3.5週) 横山(第2.4週)	水曜日は ●10時~ 診察開始
	再診	牧野 祥典	横山 弘和	●牧野 祥典	横山 弘和	牧野(第1.3.5週) 横山(第2.4週)	
小児科	午前	三重大学医師		三重大学医師	三重大学医師		
	午後(予約)	ワクチン外来 三重大学医師		ワクチン外来 三重大学医師	乳児健診 三重大学医師		
産婦人科		野村 浩史	野村 浩史	野村 浩史	野村 浩史	野村 浩史	
耳鼻咽喉科				坂井田 寛	今西 義宜		
眼科		玉置 力也	玉置 力也	玉置 力也	玉置 力也	玉置 力也	木曜日 第1週目のみ
皮膚科	午前	前田 吉民	前田 吉民	前田 吉民	前田 吉民	前田 吉民	
	午後 (13時半~15時半受付)			前田 吉民			
泌尿器科		吉尾 裕子	佐谷 博之	佐谷 博之	佐谷 博之	佐谷 博之	
放射線科(予約制)						三重大学 野本教授	
精神科(小児のみ)(予約制)			大立 (第4週)			中西 (第2週)	
神経内科(予約制)				三室 マヤ		伊井 裕一郎	
脳神経外科			柄尾 廣				

※学会等で休診または代診になる場合がありますので、お問い合わせください。

みなさまの声をお聞かせください

本誌へのご感想やご意見、ご要望などございましたら、院内に設置されている患者さんの声に投稿いただくか、お気軽にご連絡ください。

お問い合わせ先：  
尾鷲総合病院 病院総務課 総務係  
owase-hp@city.owase.lg.jp  
TEL 0597-22-3111



病院の理念

- 高度医療に対応できる東紀州地域の中核病院
- 地域の保健・医療・福祉との連携を促進し、地域の人々と共に創る病院
- 患者様に信頼され、いつでも安心して受診していただける患者様主体の総合病院
- 教育、研修機能を持つ病院
- 質の高い医療技術とサービスを提供する病院
- 職員一人ひとりが、病院の将来ビジョン・経営について考える病院

発行/尾鷲総合病院  
編集/尾鷲総合病院  
編集協力/TCK Nagoya  
所在地/三重県尾鷲市上野町5番25号  
TEL/0597-22-3111  
FAX/0597-23-3285  
ホームページ/http://owasehp.jp

# おせ+

## プラス

第22号

2020.1月発行

### ホットとプラス

最新情報

## 医療機器更新のご紹介

### 生化学自動分析装置・免疫分析装置・心エコー超音波画像診断装置を更新しました

生化学自動分析装置とは、採血管を専用のラックに立てて装置にセットすると自動でラックを搬送し、採血管のバーコードを読んで依頼検査項目を検査システムから取込み、血液や尿から糖やコレステロール、タンパク質、酵素などの各種成分の測定を行う装置です。

心エコー超音波画像診断装置とは、超音波検査の一つであり、心臓を観察します。基本的には、心臓の大きさ・形・動き・弁の動き、血液の流れなどをリアルタイムに動画で観察し、各項目を計測することにより、心臓が正常に働いているかどうかを判断します。

この検査でわかる代表的疾患としては、心筋梗塞・心臓肥大・弁膜症・先天性疾患等があります。また、超音波検査は、放射線による被曝の心配もないため、繰り返し検査が可能なおかげで、治療効果の判定にも用いられます。今回の更新により、新たな計測法も追加されており、より質の高い情報が提供できるようになりました。



### クレジット払いが可能となりました

令和元年12月11日より当院会計窓口で  
外来・入院費の「クレジットカード払い」が  
ご利用できるようになりました。

!詳しくは総合案内にお問合せください!



## 病院長より新年のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。令和になってはじめての新年を迎えました。また日頃より、皆様から当院へのご理解ご協力を頂き、心より厚く御礼を申し上げます。さて、当院は昨年4月に療養病床を地域包括ケア病床に転換いたしました。地域包括ケア病床とは、急性期治療を終え病状が安定した患者さんに、在宅療養復帰に向けたリハビリや看護支援を行う病床で、原則60日の期間となっています。転換当初は療養病床と地域包括ケア病床の理解が得られにくいこともありましたが、現在では順調に稼働し、市民の方々の認知も得られた感があります。

昨年も述べましたが、日本は2025年を目途に病床数の見直しが進んでおります。既に東紀州地区は医療需要のピークは過ぎており、現状では紀南地区を含む東紀州地区で約30%の病床が過剰となっております。病床数は高度急性期、急性期、回復期、慢性期と区分していますが、慢性期が過剰で、回復期が不足しているとされております。今回新設した地域包括ケア病床は、三重県では地域回復期に分類されており、まさに需要にマッチした病床となっております。今後地域包括ケア病床を拡充し、需要に応じていきたいと考えています。

また、今年からDPC(診断群分類包括評価)制度が開始されます。三重県の200床以上の地域中核病院では一番遅くの導入となります。DPC導入のメリットについては、診療報酬の増加が見込めるとともに、診療内容の標準化(診療状況が安定してうまく進んでいるか等)が比較できること等があります。それにより我々医療スタッフの診療内容の評価ができるようになります。DPC制度の導



病院長  
小藪 助成

入により受診者の診療内容が変化することはありませんので、ご安心いただくようお願い申し上げます。

現在日本は、働き方改革なるものが昨年4月より推進されており、医師に関しては5年間の猶予期間がありますが、医療現場も法令で義務付けされております。従来医師は昼夜を問わず働くことが美德とされ、我々もそれが当然と考えてきましたが、これからはその常識では違法行為となってしまいます。また医療の質は担保しながら医療者の労働環境を改善するのは非常に難しいことですが、様々な改善策を講じていかなければなりません。皆様のご理解ご協力をよろしくお願い申し上げます。

今日の日本は、変化のスピードが速くなっており、今までの病院運営では立ち行かなくなることが予想されます。我々も当院が継続できるよう、日々工夫努力していきたいと考えております。今後も市民の皆様の健やかな生活を守るべくスタッフ一同努力してまいりますので、ご協力とご理解の程よろしくお願い申し上げます。



## 地域包括ケア病棟のご紹介

尾鷲総合病院では平成31年4月から「地域包括ケア病床」を開設しました。開設から半年を経過し約200人の患者さんにご利用いただきました。

地域包括ケア病床では、急性期治療を終え症状が安定した患者さんに在宅療養への復帰支援に向けた医療と看護、支援を行う病床です。地域包括ケア病床では、常時90%以上の患者さんがリハビリを行い退院を目指しております。

リハビリは、理学療法士4名と作業療法士2名が担当し、リハビリでの成果を日々の生活に取り入れるために看護師、介護福祉士と協力してケアを行っています。病気や怪我による入院をきっかけに失ってしまった体力や、生活にかかわる能力をできる限り取り戻していくことで、患者さんの表情が明るくなり日々活動的に変わっていく様子を、驚かされることもあるほどです。

地域包括ケア病床は原則60日と定められた入院期間がありますが、介護施設等と連携して退院後のケアについて、サポートをさせていただくことで、これまでの入院期間は平均36日、在宅復帰率は約90%となっております。

地域包括ケア病床がこれまでの療養病棟のイメージとは違い、医療と在宅療養・介護との懸け橋となる病床であることご理解いただけるよう職員一同力を合わせて頑張りますので、よろしくお願いいたします。



## 第3回 MIELSで銅メダルを受賞しました。

令和元年10月6日(日)に、鈴鹿市の三重県消防学校で第3回MIELS大会が開催されました。MIELSとは、さまざまな救急現場の想定において医療と消防が連携を取りつつ、適切な処置を施すことを競う大会です。我々は「チーム尾鷲」で医師2名、看護師2名、救急救命士2名の計6名で出場しました。三重県全域から14組の精鋭チームが集まって競う大会でプレッシャーもありましたが、日頃の訓練の成果を十分出し切ることができ、3位銅メダルを受賞することができました。



東紀州では、南海トラフ地震による津波災害、大雨による土砂災害など他地域とくらべても身近なところで大きな災害が起こりうる地域でもあります。こうした災害が起きたとき、一人でも多くの命を助けられるよう日頃から医療と消防が連携を取り、訓練を続けていくことが重要であると身をもって感じた大会でもありました。